かほく
ワークシート

問　題

①救助活動の体験を発表した2人は、当時どこに勤務していましたか。

②赤ちゃんをヘリでつり上げた小野寺さんは、どんなことを自分の使命だと述べていますか。

（小学4年生以上／社会、防災学習など）

震災時 決死の救助

仙台 消防署員ら体験発表

消防署員らが東日本大震災での救助活動の体験を語る講演会「あの時私は…」が16日、仙台市若林区の3・11メモリアル交流館であった。切迫した状況で救助に当たった署員の話に、参加者約80人が聞き入った。

津波で被災した若林消防署荒浜航空分署に当時勤務していた隊員2人が写真や映像をスライドショーで流し、震災での経験と思いを語った。

ヘリで救助活動をした小畑真美さん(45)は津波が街をのみ込む瞬間を目撃。「救助が成功した例もあるが、救助できなかった人がいたことも事実だ」と、涙をこらえながら話した。

小野寺修さん(43)は津波被災地で赤ちゃんをヘリでつり上げた。「当時7カ月の自分の子どもと重なった。自分が助けなければと強く思った。後世に経験を伝えていくのが自分の使命だ」と決意を述べた。

交流館で開催中の消防署員らの手記を集めた展示会に合わせて開かれた。青葉区の無職古山智枝子さん(44)は「初めて隊員の話を聞いて衝撃を受けた。心の痛みが伝わってきた」と話した。

参加者と七郷地区住民による語り継ぎボランティアの交流会もあった。

震災当時の体験を語る小畑さん（左）

出題者から

東日本大震災から今日で7年。南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、震災の記憶と教訓を伝える取り組みの重要性が高まっています。記事にある荒浜航空分署のヘリポートは、ヘリが離陸した直後に大津波に襲われ、壊滅的な被害を受けたそうです。切迫した状況下で懸命に救助活動を行った消防や警察、自衛隊、地方自治体の方々の体験から学ぶべきことは、まだまだたくさんあると思います。

（日本新聞協会NIEアドバイザー・仙台市七北田小教諭　今藤正彦）